薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・

２０２２年
１０月５日
第１３８号

アメリカキササゲ
（ノウゼンカズラ科）

園内、温室近く、山崎川沿いのフェンス横の高木に、沢山の実がぶら下がっています。北米原産で、日本には明治時代に導入され、新宿御苑に植えられました。もともと日本には、同属植物のキササゲが栽培され、自生も見られています。春の花はキササゲにそっくりですが、花自体は白く（キササゲは淡黄色）、区別できます。この「さく果」は目にとまりやすいくらい長く太くなり、冬も越します。本植物の葉と種子は鎮咳、樹皮は解毒、鎮静、瀉下を目的に、アメリカの民間で使われますが、日本では鑑賞用として植栽されています。キササゲの果実は、同じキササゲという名称の生薬となり、日本薬局方にも収載され、民間で健胃、利尿を目的に使用されます。中国での生薬名は梓実（日本語読みをするとシジツ）で、中医学では利水消腫を目的に使用されます。

カワラヨモギ（キク科）

管理棟前の圃場で、長さ１mm程度の小さな黄色い花が咲いています。北海道を除く日本列島の海岸や川岸の砂地に分布する多年草です。頭花から生薬の茵蔯蒿（インチンコウ）となり、利胆、利尿、黄疸の改善を目的に、茵蔯蒿湯、茵蔯五苓散などの漢方薬に配合されます。ところで中国では、「茵陈蒿」は本植物の植物名を指し、地上部が生薬の「茵陈」となり、清利湿熱、利胆退黄を目的に利用されます。中国では、春に採取したカワラヨモギの幼苗から調製した生薬を「綿茵陈」、秋に花が付いた状態で調製した生薬を「花茵陈」と呼び、後者の一部分が日本で生薬として利用されることになります。日本と中国の伝統医学の違いは、このようなところにも現れます。